

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
論点整理					
敷地内 地質・地質構造	1	H25. 11. 28	敷地内破碎帯については、6・7号機直下以外の破碎帯も含めて、敷地内全ての破碎帯の調査・評価に関わるデータを提示すること。	H25. 12. 4ヒアリング H25. 12. 19ヒアリング H26. 1. 24審査会合	
敷地内 地質・地質構造	2	H25. 11. 28	敷地内破碎帯の性状を明らかにするため、建設時における原子炉建屋基礎掘削面スケッチを提示すること。	H25. 12. 19ヒアリング H26. 1. 24審査会合	
上載層	3	H25. 11. 28	敷地内破碎帯の活動性が無いとする従前の評価の根拠である上載地層（安田層）について、その堆積年代を特定した根拠を明示すること。	H25. 12. 4ヒアリング H26. 1. 24審査会合	
立坑全体	4	H25. 11. 28	敷地内破碎帯と上載地層の関係を明確にするためトレンチ調査等を行い、敷地内破碎帯が将来活動の可能性がある断層等に該当するかどうかを明らかにすること。	H26. 7. 29ヒアリング H26. 10. 3審査会合 H26. 10. 30～31現地調査 H27. 2. 27審査会合 H27. 3. 17現地調査	
海域連動	5	H25. 11. 28	検討用地震の対象としているF-B断層については、近傍の活断層との連動の考慮の可否を判断するための地質調査結果や地震観測記録等を提示すること。	H26. 10. 1ヒアリング H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	6	H25. 11. 28	敷地周辺陸域に存在が推定される真殿坂断層や寺尾付近の断層及び敷地周辺海域に存在が推定される佐渡海盆東縁断層については、将来活動の可能性がある断層であるかどうかを判断するための根拠を明示すること。判断する根拠が明確でない場合は、必要な調査を実施すること。	H25. 12. 13ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
伝達事項					
敷地内 地質・地質構造	1	H26.1.24	大湊側敷地内については断層性状を最新情報に更新し、最新活動時期と断層の切り／切られ関係を十分に検討し、代表性を有する断層を特定すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
敷地内 地質・地質構造	2	H26.1.24	荒浜側敷地内についても、①と同様に最新情報を用いて説明すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
立坑全体	3	H26.1.24	断層の活動性をトレンチ調査等によって直接確認するため、上載層があつて掘削可能な地点を敷地内もしくは敷地外に選定し提示すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
上載層	4	H26.1.24	③の調査地点を検討するため、ならびに、安田層・古安田層の年代特定を確実にするため、現地調査において以下の準備をすること。 敷地内で掘削されたボーリングコアを、観察可能な状態に準備すること。特に、安田層・古安田層およびその他の第四系が観察可能なコア、ならびに断層を確認できるコアを準備すること。 ボーリングコアから採取されたテフラ、微化石の分析結果を参照可能なように、資料を準備すること。 大湊側においても古安田層の年代特定のためのボーリング調査を計画すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
近傍 地質・地質構造	5	H26.1.24	北-1測線における反射法地震探査断面及びボーリング調査結果を提示すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
北2（西元寺）	6	H26.1.24	北-2測線について、北2-⑤よりもさらに西の区間及び背斜構造・向斜構造を含む区間について、既存ボーリングの間隔を補完するように稠密群列ボーリング調査を計画すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
北2（西元寺）	7	H26.1.24	北-2測線について、安田層と沖積層の境界部における安田層の構造を明らかにすることを目的として、稠密群列ボーリング調査を計画すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
寺尾	8	H26.1.24	寺尾地点で報告されている断層の延長部において、背斜軸付近の断層の有無を確認することを目的として、稠密群列ボーリング調査を計画すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
寺尾	9	H26.1.24	寺尾付近の断層の活動性をトレンチ調査等によって直接確認するため、上載層があつて掘削可能な地点を選定し、提示すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
長嶺・高町背斜	10	H26.1.24	高町背斜の活動性を確認するため、ML08-1 測線、KK-f 測線（ML08-2 測線）、KK-T4 測線、南-1 測線において、浅層反射法地震探査及び稠密群列ボーリング調査を計画すること。	H26.1.24審査会合 H26.2.17～18現地調査	
海域 地質・地質構造	11	H26.1.24	F-B 断層の東側に存在する背斜構造とそれに付随する断層を横切る測線の音波探査断面について説明すること。	H26.7.8ヒアリング H26.8.26ヒアリング	
海域	12	H26.1.24	上記の背斜構造について陸上延長部における地質構造との連続性について説明すること。	H26.7.8ヒアリング H26.8.26ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
審査会合コメント					
敷地内 地質・地質構造	1	H26. 1. 24	敷地内のボーリングデータについて、今後の議論の中で使うためのデータベースを作成して欲しい。(配置・経緯度・角度などのデータがあり、柱状図・写真がリンクされているようなもの。)	H27. 12. 11ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	2	H26. 1. 24	α 断層・ β 断層について東電提案の1号～2号間の斜めボーリングに加えて、1号R/Bのさらに南側で、断層が伸びていないことの確認を目的とした調査があってもよいと思うので、検討して欲しい。	H26. 2. 17～18現地調査	
$\alpha \cdot \beta$	3	H26. 1. 25	α 断層断層について東電提案の、断層主部(1～2号炉間)での追加調査は効果的と思うが、基本的に上載層との関係を確認したい点とstep overの可能性も考えて、南側の調査を実施する効果もあると思うので、検討して欲しい。	H26. 2. 17～18現地調査	
上載層	4	H26. 1. 24	安田層の年代について、これまで安田層としてきたものが、ボーリング調査の結果として古安田層になったのは、大きな話と捉えている。ボーリングデータがないところで安田層を古安田層に変更しているが、可能な限り年代を特定する調査を追加して欲しい。	H27. 1. 20ヒアリング	
全体	5	H26. 1. 24	あらかじめ決まった形で調査をするのではなく、調査の柔軟性に配慮して欲しい。	拝承	
海域 地質・地質構造	6	H26. 1. 24	敷地前面の海域にある背斜構造の活動性について、(必要に応じて)説明すること。	H26. 7. 8ヒアリング H26. 8. 26ヒアリング	
上載層	7	H26. 10. 3	古安田層の年代についての説明性を増して欲しい。特に、広域火山灰が確認されていないA3, A4部層の年代は、花粉分析だけでは説得性が乏しい。	H27. 1. 20ヒアリング	
上載層	8	H26. 10. 3	敷地内にMIS6に削られた谷はないのか、など敷地の古安田層の分布について説明すること。	H26. 10. 30～31現地調査	
立坑 F3	9	H26. 10. 3	F3立坑で、古安田層中のシルトが30度程度傾斜している理由を説明すること。	H26. 10. 30～31現地調査	
立坑 F3	10	H26. 10. 3	立坑基部のスケッチで、F3断層②の走向傾斜にバラツキがある理由を説明すること。	H26. 10. 30～31現地調査	
立坑 F3	11	H26. 10. 3	F3立坑基部のスケッチで、西山層上限面は断層である可能性はないのか。	H26. 10. 30～31現地調査	
立坑全体	12	H26. 10. 3	立坑調査で確認された断層について、条線などデータを拡充して、既往データと整合しているのか、説明すること。	H27. 4. 20ヒアリング	
立坑 V2	13	H26. 10. 3	V2立坑では、西山層健岩部と風化部を区別しているが、目視観察からのみではなく、組成分析などによる評価を行うこと。	H27. 4. 20ヒアリング	
立坑 F3	14	H26. 10. 3	F3立坑基部のスケッチで西山層上限面が直線的に見える。すべっているのでは？	H26. 10. 30～31現地調査	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑全体	15	H26. 10. 3	L1立坑基部スケッチで、不整合面としている西山層上限面の凹凸は断層による可能性はないのか。	H26. 10. 30～31現地調査	
立坑全体	16	H26. 10. 3	L1立坑基部接写写真についてL1断層が上載層（礫層）に延びていっているように見えるところがある。また、接写Cでは、階段状の断層があるように見える。 接写箇所の詳細スケッチや写真の撮り方を工夫して説明すること。	H26. 10. 30～31現地調査	
$\alpha \cdot \beta$	17	H26. 10. 3	1号炉法面で、 $\alpha \beta$ 断層の上端は低角度断層で止まっている、とのことだが、元々低角度断層が分布していたが、低角度断層によって切られているのではないか。	H26. 12. 15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	18	H26. 10. 3	1号炉法面で、大湊砂層の標高に違いがあること、同法面西端部で、大湊砂層中に古安田層がくさび状に分布していること、を説明すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	19	H26. 10. 3	1号炉法面における $\alpha \beta$ 断層の活動性評価は説得性が低いと考えられる。今回のBoコアを用いて、破碎部性状や粘土鉱物分析などをして、活動性に関するデータを拡充すること。	H27. 4. 20, 27, 5/11ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	20	H26. 10. 3	変位量を評価する上で、西山層中の鍵層を認定した根拠を示すこと。	H26. 11. 10ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	21	H26. 10. 3	鍵層の結び方については、複数の方法を試してみて、変位の累積性を評価すること。	H26. 11. 10ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	22	H26. 10. 3	$\alpha \beta$ 断層だけではなく、他の断層の分布や特徴も示すこと。	H26. 10. 30～31現地調査	
海域連動	23	H26. 10. 17	F-B断層の連動の可能性について、地質構造の観点から説明すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	24	H26. 10. 17	佐渡島南方断層と佐渡島棚東縁撓曲の連動を考慮していない理由を説明すること。活断層ではないが、地質断層で傾斜が逆の断層が連続しているのを知っている。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	25	H26. 10. 17	日本東縁部の南限が、南方へ延びる可能性について説明すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
全体	26	H27. 2. 27	寺尾地点・北2測線・F5断層のボーリングで確認された断層の条線に関する情報を提示すること。	H26. 6. 8ヒアリング	
北2（西元寺）	27	H27. 2. 27	後谷背斜西翼側に推定される断層について説明すること。	H26. 6. 8ヒアリング	
北2（西元寺）	28	H27. 2. 27	北-2測線における断層の解釈をボーリング柱状図などのデータで示すこと。	H27. 3. 17現地調査	
北2（西元寺）	29	H27. 2. 27	北-2測線で地滑り断層の延長に、椎谷層の落差があるようにも見える。当該部分の考え方の根拠をしめすこと。	H27. 3. 17現地調査	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
北2 (西元寺)	30	H27.2.27	北-2-T5の古安田層分布について確認すること。	H27.3.17現地調査	
北2 (西元寺)	31	H27.2.27	西元寺において、西山層を東上がりさせる断層はないか確認すること。	H27.3.17現地調査	
北2 (西元寺)	32	H27.2.27	西山層、椎谷層内の層面すべりを主体とした地滑りが生じている可能性について、整理すること。	H27.3.17現地調査	
近傍 地質・地質構造	33	H27.2.27	ボーリングで確認した断層や鍵層の詳細を説明すること。(北-2, 寺尾, F5断層)	H27.3.17現地調査	
寺尾	34	H27.2.27	寺尾のA断層について、左横ずれとしている理由についてデータを示すこと。	H27.3.17現地調査	
寺尾	35	H27.2.27	寺尾付近の断層について、層面すべり断層よりも深部の断層の分布について示すこと。	H26.10.31現地調査コメントと重複	
寺尾	36	H27.2.27	寺尾の断層について、背斜の成長によって正断層(副次的なもの)が生じた可能性を検討すること。	H27.3.17現地調査	
寺尾	37	H27.2.27	寺尾付近の断層について、応力場の再現なども含めた考察をすること。	H26.6.8ヒアリング	
立坑 F5	38	H27.2.27	F5断層、低角度断層について薄片観察を実施すること。	H27.4.20ヒアリング	
立坑 F5	39	H27.2.27	複合面構造の詳細な図面を示すこと。	H27.3.17現地調査	
立坑 F5	40	H27.2.27	褶曲軸と平行な条線だとしても非構造的な断層とは言い切れないので、論理の飛躍がないよう整理すること。	H27.3.17現地調査	
上載層	41	H27.2.27	中子軽石の降下年代とこれまで説明している大湊砂層の堆積時期の関係に矛盾がないことを説明すること。	H26.6.8ヒアリング	
上載層	42	H27.2.27	火山灰について屈折率の分析結果も示すこと。	H26.6.8ヒアリング	
上載層	43	H27.2.27	刈羽テフラ(y-1)について敷地内外1点ずつの分析結果が提示されたが、精度を上げるため地点数を増やすこと。	H27.3.17現地調査	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
上載層	44	H27. 2. 27	刈羽テフラ（y-1）の酸化Naのばらつきが大きいようなので、その要因について検討すること。	H26. 6. 8ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	45	H27. 2. 27	阿多島浜テフラの標高分布が、断層の組合せによって説明ができるのか詳細を説明すること。	H26. 6. 8ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	46	H27. 2. 27	真殿坂断層について相関が低いから、後期更新世の活動がないとするのは論理が飛躍している。	H27. 3. 17現地調査	
近傍 地質・地質構造	47	H27. 2. 27	椎谷層上限面コンターに示している北-2測線を横断する断層について説明すること。	H26. 6. 8ヒアリング	
海域	48	H27. 4. 3	連動を考慮していない活断層の端点の詳細説明を行うこと。	H27. 5. 25ヒアリング	
海域連動	49	H27. 4. 3	F-B断層の発生確率について、連動検討の相手の発生頻度を比較するなどして説明性を向上すること。	H27. 5. 25ヒアリング	
海域連動	50	H27. 4. 3	佐渡島棚東縁撓曲と佐渡島南方断層の連動は断層傾斜が逆向きであることを1つの根拠にしているが、連動しないことの根拠になるのか。	H27. 5. 25ヒアリング	
海域 地質・地質構造	51	H27. 4. 3	海域層序について、基礎試錐のデータなどを用いてその考え方の詳細を示すこと。	H27. 5. 25ヒアリング	
海域 地質・地質構造	52	H27. 4. 3	敷地前面の背斜の活動性については、追加地質調査結果も加えて説明性を向上させること。	H27. 5. 25ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	53	H27. 4. 10	中越沖地震後の文献に、敷地近傍の断層露頭に関する記載があるものがあるので、地震後の文献を調査し、関連するものについては検討を行うこと。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	54	H27. 4. 10	褶曲の形成史を説明すること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	55	H27. 4. 10	片貝断層の南端の妥当性について詳細説明をすること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	56	H27. 4. 10	片貝断層の南端に関連してKa07-P2・P1測線のテフラ層準の設定根拠を説明すること。	H27. 5. 18ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
陸域連動	57	H27. 4. 10	十日町断層帯西部の南端について説明をすること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	58	H27. 4. 10	中央油帯背斜南部周辺の地形面分布図について、より広範囲の図面を示すこと。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	59	H27. 4. 10	細越断層について、リニアメント付近の久米層に変位がないか説明すること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	60	H27. 4. 10	細越断層について、リニアメント全体を示すこと。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	61	H27. 4. 10	孤立した長さの短い活断層の長さが長くなる可能性について検討すること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	62	H27. 4. 10	柏崎平野南東縁のリニアメントと中央油帯背斜との関連性を説明すること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	63	H27. 4. 10	副次的な構造の詳細説明を行うこと。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	64	H27. 4. 10	侵食地形と評価したリニアメントの詳細を説明をすること。	H27. 5. 18ヒアリング	
立坑 V2	65	H27. 5. 22	V2立坑の西山層健岩部と風化部の含水率測定の実験内容を説明すること。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑 V2	66	H27. 5. 22	V2立坑の西山層健岩部と風化部の分析において、西山層の含水率が高いので、文献の値などと比較すること。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑 F3	67	H27. 5. 22	沖積層と西山層の境界部のCT画像について明暗の要因について説明すること。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑 F3	68	H27. 5. 22	重力性のすべりとして整理している断層について、すべり方向の断面図を示すこと。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑全体	69	H27. 5. 22	立坑の詳細分析において、複合面構造の参考文献を明記すること。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑 F5	70	H27. 5. 22	F5断層先端部の断層粘土の分布状況について、断層の変位方向を含めて、詳細に説明すること。	H27. 6. 15ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑全体	71	H27.5.22	立坑の詳細分析において、CT画像を鮮明なものにすること。	H27.6.15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	72	H27.5.22	β 断層の深部が止まっていないので他のデータで補強できないか。	H27.6.15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	73	H27.5.22	$\alpha \cdot \beta$ 断層の変位の累積性の評価で、鍵層の連続を整理しているが、そのほかの小断層の影響はないか。	H27.6.15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	74	H27.5.22	$\alpha \cdot \beta$ 断層について、破砕部の鉱物分析などの評価を補強できないか。	H27.6.15ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	75	H27.5.22	$\alpha \cdot \beta$ 断層が将来活動する可能性のある断層等であるか否かについて説明すること。	H27.6.15ヒアリング	
四紀断層	76	H27.5.22	旧青山農場地点の断層の形態について説明すること。	H27.6.15ヒアリング	
立坑 F5	77	H27.5.22	立坑の詳細分析において、一つの面でP面が2方向認識されるものなどが見受けられる。確度が高い情報が必要なので、慎重に判読した方がいい。	H27.6.15ヒアリング	
四紀断層	78	H27.5.22	KK-2測線で反射面が不鮮明に見える区間について、5号法面付近のボーリングデータを示して説明を補強すること。	H27.6.15ヒアリング	
四紀断層	79	H27.5.22	KK-f測線付近の地質構造の評価で使っているボーリング柱状図等の詳細データを示すこと。	H27.6.15ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	80	H27.5.22	重要施設と断層の位置関係がわかるような図を示し、6・7号炉申請という観点から整理すること。(特重設など出せないものは要調整)	H26.6.8ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	81	H27.5.22	敷地内の地質/地質構造について、地質調査結果やコメント回答を含めて全体像がわかる資料を説明すること。	H26.6.8ヒアリング	
海域 地質・地質構造	82	H27.6.19	米山沖断層と産総研による上越沖海域の調査結果との関係を詳細に説明すること。	H27.6.29ヒアリング	
海域 地質・地質構造	83	H27.6.19	米山沖断層の南端について、Bu層の分布範囲は着目している地質構造から離れている。評価した詳細な内容を説明すること。	H27.6.29ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	84	H27.6.19	日吉小学校南西の断層露頭について、可能であれば詳細な調査を行うこと。	H27.6.29ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
海域 地質・地質構造	85	H27. 6. 19	F-B断層の南端について、まとめの資料に少し詳しく反映すること。	H27. 7. 6ヒアリング	
全体	86	H27. 6. 19	敷地周辺陸域と海域、敷地近傍及び敷地内に分布する褶曲の活動性について全体説明をすること。	H27. 7. 6ヒアリング(周辺陸域・海域) H27. 7. 13ヒアリング予定(近傍・敷地内)	
寺尾	87	H27. 6. 26	寺尾地点について、A断層以外の断層の走向傾斜を整理すること。(椎谷層中の断層も含めて)	H27. 7. 13ヒアリング	
寺尾	88	H27. 6. 26	寺尾地点について、地すべり土塊の運動像を説明すること。	H27. 7. 13ヒアリング	
寺尾	89	H27. 6. 26	寺尾地点について、周辺地形の陰影図等を提示すること。	H27. 7. 13ヒアリング	
北2(西元寺)	90	H27. 6. 26	北-2測線について、周辺地形の陰影図等を提示すること。	H27. 7. 13ヒアリング	
立坑 V2	91	H27. 6. 26	V2立坑の西山層の分析について、H20-の試験概要およびエビデンスを示すこと。	H27. 7. 21ヒアリング	
立坑 F3	92	H27. 6. 26	F3立坑の沖積層がCTスキャンで白く写ることについて、帯磁率との関係について説明すること。	H27. 7. 21ヒアリング	
立坑 F5	93	H27. 6. 26	F5断層について、低角度正断層の先端が開いた事例はあるのか。	低角度の正断層の事例については見つけられず。	
立坑 F5	94	H27. 6. 26	F5断層の評価について、これまでの調査および分析結果を整理して、全体的な説明をすること。	H27. 7. 21ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	95	H27. 6. 26	$\alpha \cdot \beta$ 断層の上載層である大湊砂層の原地形における分布を説明すること。	H27. 7. 21ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	96	H27. 6. 26	$\alpha \cdot \beta$ 断層の東方で、西山層上限面が谷地形を示す箇所に断層が分布しないか説明すること。	H27. 7. 21ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	97	H27. 6. 26	$\alpha \cdot \beta$ 断層について、西山層上限面付近の地質観察結果があれば、説明すること。	これまで提出した資料以外はない。	
海域 地質・地質構造	98	H27. 7. 10	角田・弥彦断層の北端、F-B断層の南端、米山沖断層の南西端、佐渡島棚東縁撓曲の南端の評価について、詳細説明をすること。	H27. 9. 1ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
海域 地質・地質構造	99	H27.7.10	高田平野西縁断層と上越沖の断層に関する評価を追記すること。	H27.9.1ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	100	H27.8.7	荒浜側のV断層について、3V-1断層を活動性評価の代表としている理由を説明すること。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	101	H27.8.7	①・②断層について、想定する地すべり土塊の運動像を示すこと。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	102	H27.8.7	①・②断層の条線データがあれば示すこと。	断層面が不明瞭あるいはゆ着しており、条線を確認出来ず。	
敷地内 地質・地質構造	103	H27.8.7	地すべり土塊を形成する①・②断層、F5断層についてボーリングデータを示すこと。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	104	H27.8.7	荒浜側上載層について、3V-1坑上方の古安田層の地質構造を示すこと。合わせて、3V系断層に連続するような断層が古安田層中に分布するの否か説明すること。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	105	H27.8.7	①・②断層について、地すべり土塊中の推定断層を平面図に示し、性状について説明すること。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	106	H27.8.7	①・②断層について、地すべり土塊分布範囲の古安田層の地質構造を示すこと。	H27.9.7ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	107	H27.9.18	古安田層の名称について、国際層序ガイド等に基づいて検討すること。	H28.2.12審査会合	
近傍 地質・地質構造	108	H27.9.18	古安田層および大湊砂層の年代などについては、引き続き、知見を収集し今後の評価に反映すること。	拝承	
敷地内 地質・地質構造	109	H27.9.18	敷地内において、寺尾付近の断層と同様な断層が分布していないの否かについて説明すること。	H27.9.28ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	111	H27.9.18	寺尾付近の断層の成因（地すべり性の断層）については、北-2測線の断層評価結果などと統一すること。	まとめ資料に反映	
近傍 地質・地質構造	112	H27.9.18	北-2測線において、刈羽テフラと阿多鳥浜テフラの標高を示すこと。	まとめ資料に反映	
立坑 F5	113	H27.10.9	F5断層の活動性については、総合的に評価を行うこと。	H27.12.4審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	114	H27.12.2	F5断層に関連するボーリングデータ及びコア写真の詳細データを提出すること。(コア写真は拡大などして見やすくすること。)	H27.12.7ヒアリング	
立坑 F5	115	H27.12.2	褶曲構造に関連したF5断層の運動における応力場の評価について再度整理すること。	H28.1.5ヒアリング	
立坑 F5	116	H27.12.2	F5断層走向方向の古安田層に変位・変形を及ぼした範囲について、評価を行うこと。	H27.12.7ヒアリング	
立坑 F5	117	H27.12.2	EL.-33m付近のF5-6孔及びEL.-32m付近のF5-10孔のコアに見られる亀裂について説明すること。	H27.12.7ヒアリング	
立坑 F5	118	H27.12.2	EL.-19m付近のF5-7'孔の亀裂に見える箇所について説明すること。	H27.12.7ヒアリング	
立坑 F5	119	H27.12.2	EL.-19m付近のF5-11孔の地層が傾いている箇所を説明すること。	H27.12.7ヒアリング	
立坑 F5	120	H27.12.2	北側のMIS7堆積物の勾配が大きい理由を説明すること。	H27.12.14ヒアリング	
立坑 F5	121	H28.1.25	ボーリングコア現地確認時に、F5断層を確認した試掘坑における写真データを提示すること。	H28.2.2ヒアリング	
立坑 F5	122	H28.2.12	F5断層、一連の正断層、高角度断層、低角度断層の定義を明確にすること。(「褶曲に関連した(しない)F5断層」について、成因を断層名に付けるのは望ましくない。)	まとめ資料に反映	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
ヒアリングコメント					
上載層	1	H25. 12. 4	堆積年代評価において、花粉化石の量と温暖期・寒冷期の関係のみを利用して説明すると矛盾が生じることがあることに注意すること	拝承	
その他	2	H25. 12. 4	敷地内の構造物の配置等、現在の敷地の利用状況について示すこと	H26. 12. 5ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	3	H25. 12. 13	中央丘陵西縁部断層についての詳細資料を提示すること	H26. 11. 26ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	4	H25. 12. 13	角田・弥彦断層の沖積層の活動性について、産業総合研究所から報告が出ているので、評価に当たっては、それも参考にすること	H26. 11. 26ヒアリング	
海域 地質・地質構造	5	H25. 12. 13	後期更新世以降の活動性を認定している断層の延長部において作成されている反射断面について、更新世中期（約40万年前以降）における活動性を検討すること	H26. 11. 26ヒアリング	
全体	6	H25. 12. 13	陸域及び海域の地質層序について、説明すること	H26. 11. 26ヒアリング H27. 1. 6ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	7	H25. 12. 13	角田・弥彦断層北端付近で実施されているM-25、M-26測線を深度変換後の断面図に差し替えること	H26. 11. 26ヒアリング	
寺尾	8	H25. 12. 19	寺尾付近の断層について、A断層だけでなく、Bトレンチ等で認められている北西走向の高角系断層についても東京電力の評価結果を説明すること	H27. 2. 27審査会合 H27. 3. 17現地調査	
近傍 地質・地質構造	9	H25. 12. 19	北-1測線沿いで実施されているボーリング調査結果を説明すること。また敷地内及び敷地周辺における安田層・古安田層の分布範囲を示すこと	H26. 1. 15ヒアリング	
海域 地質・地質構造	10	H25. 12. 19	F-B断層の東側に位置する背斜構造と断層を含む海上音波探査及びこれらの陸上延長部の地質構造について詳細に説明すること	H26. 7. 8ヒアリング H26. 8. 26ヒアリング	
全体	11	H25. 12. 19	現地調査の際に確認するボーリングコアの準備、追加ボーリング調査等の実施に向けた検討を行うこと	拝承	
長嶺・高町背斜	12	H26. 1. 22	【追加調査に対する意見交換】 調査内容の妥当性を検証するため、反射法地震探査及びボーリングを実施するに当たり、ターゲットとしているもの、そのスペックを提示することを求めた。	H26. 2. 17~18現地調査	
全体	13	H26. 1. 30	【追加調査に対する意見交換】 調査にあたって、ボーリング調査の位置及び柱状図等を提示することを求めた。	H26. 2. 17~18現地調査	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
海域・地質・地質構造	14	H26.7.8	敷地周辺の地質・地質構造について、海上音波探査断面で背斜軸両側にB層が存在することから、敷地前面の背斜構造はB層堆積時期まで活動を継続している可能性がある。その延長に当たる尼瀬背斜上で灰爪層が完全に活動を停止したことが陸上では確認できず、音波探査断面で傾斜不連続が認められないことで活動性を否定することはできないので、この構造の活動性について更に検討すること。	H26.8.26ヒアリング	
上載層	15	H26.7.29	追加調査の立坑やボーリング位置における古安田層の年代及び周辺との層序対比について検討すること。	H26.10.30～31現地調査	
立坑 F3	16	H26.7.29	追加調査F3立坑で確認される古安田層基底部のシルト層中に認められる約30度の傾斜について、その成因を検討すること。	H26.10.30～31現地調査	
$\alpha \cdot \beta$	17	H26.10.1	$\alpha \cdot \beta$ 断層に関するボーリング調査結果には、他の断層についての情報も記載すること。	H26.10.30～31現地調査 H27.4.20ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	18	H26.10.1	$\alpha \cdot \beta$ 断層の変位量を検討している地質断面について、鍵層の傾斜を変化させている理由を説明すること。	H26.10.30～31現地調査	
海域・地質・地質構造	19	H26.10.1	F-B断層については、当該断層の活動性等の説明だけではなく、周辺断層との比較等により、他の断層と連動しない評価としたことの妥当性について説明すること。	H26.10.1ヒアリング H26.12.15ヒアリング	
長嶺・高町背斜	20	H26.10.15	下高町地点の反射法地震探査結果について、St-3とSt-5の間でA層に相当する反射面が西に高くなっているように見えるため、同層の変形の有無をボーリング調査結果と合わせて精査すること。また、反射のプロファイルと各層の解釈線がずれている理由を説明すること。	H26.10.30～31現地調査	
長嶺・高町背斜	21	H26.10.15	St-5の古安田層と沖積層の境界の傾斜について、詳細に確認しておくこと。	H26.10.30～31現地調査	
$\alpha \cdot \beta$	22	H26.10.15	$\alpha \cdot \beta$ 断層に関するボーリング調査結果について、ボーリング孔で観察されている全ての断層の走向・傾斜をシュミットネットで示すこと。	H27.4.20ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	23	H26.11.10	α 断層及び β 断層に横ずれ成分が無いかどうか確認すること。	H27.4.20ヒアリング	
長嶺・高町背斜	24	H26.11.10	五日市地点の調査において、撓曲変形に伴う西山層の構造をボーリングコア試料で説明すること。	H26.6.8ヒアリング	
長嶺・高町背斜	25	H26.11.10	刈羽地点の調査において、西山層と灰爪層が高角度の傾斜で接していることについて、境界部の評価について説明すること。	H26.6.8ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
海域 地質・地質構造	26	H26. 11. 10	F 3 立坑で確認された F 3 断層の成因を、断層の構造を踏まえて説明すること。	H27. 4. 20ヒアリング	
海域 地質・地質構造	27	H26. 11. 26	音波探査記録の評価については、背斜構造の下にスラストが伏在している可能性もあるので確認すること。また、蝶番のように動く断層の事例もあるので、構造だけでは断層の存在を否定できないことを考慮して確認すること。	拝承	
海域 地質・地質構造	28	H26. 11. 26	音波探査記録については、Bu 層等の層厚が薄く、変位・変形が及んでいるのか判断が難しいものもあるので、拡大図を追加すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	29	H26. 11. 26	平均変位速度の算定については、基底面の上下変位量に基づいて算定しているが、バランス断面法による短縮速度や断層面の変位量から平均変位速度を算定することも検討すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	30	H26. 11. 26	佐渡堆の東側の撓曲構造については、その北方にある佐渡島棚東縁撓曲に連続しないことが確認できる資料を提示すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	31	H26. 11. 26	佐渡島南方断層（F 4 0）については、その北端部が確認できる資料を提示すること。	H25. 12. 13ヒアリング	
海域連動	32	H26. 11. 26	文献調査の検討結果については、日本海における大規模地震に関する調査検討会の報告書の内容に従って記載した上で、事業者としての検討結果を記載すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
海域連動	33	H26. 11. 26	文献で指摘されている陸域及び海域の断層を敷地周辺海域の断層分布図に追記すること。	H26. 12. 15ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	34	H26. 11. 26	中央油帯背斜南部周辺の地質図については、安田層上部層と下部層とを区分した根拠を示すこと。	柏崎団体研究グループ(1966)が定義した模式地に基づいて区分	
陸域 地質・地質構造	35	H26. 11. 26	中央油帯背斜南部周辺の地形断面図については、安田面（M I 面）が山側に傾斜しているので、断層によって変形していないかを確認すること。また、露頭位置などの必要な情報を地質図に追記すること。	H27. 5. 18ヒアリングで回答	
四紀断層	36	H26. 12. 15	各調査地点において、法面や露頭のスケッチだけでなく、写真などがあれば追加すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	37	H26. 12. 15	各断面図で古安田層と一括されているものは、できるだけ部層に細分して示すこと。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	38	H26. 12. 15	法面観察結果における古安田層の凡例を統一すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	39	H26. 12. 15	地すべり性の断層の判断根拠として古安田層基底面に変位が認められないことも基準にしているが、同層基底面には起伏があり、何らかの条件を与えないとその根拠が弱くなるので検討すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	40	H26. 12. 15	地すべりによって土塊が移動していることや、断層のすべり面の性状がわかる資料を提示すること。	H27. 5. 11ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
四紀断層	41	H26. 12. 15	各調査地点付近で反射法地震探査を実施している場合には、その調査結果を追加すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	42	H26. 12. 15	大湊地点における露頭 a での露頭観察結果については、せん断面が発達している部分にピート層が接していることに関して詳細な資料を提示すること。また、レンズ状粘性土が断層に引きずられていないか確認すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	43	H26. 12. 15	5号炉周辺斜面地点におけるボーリング調査結果については、鍵層である古安田層中の腐食質シルト層がボーリング孔 5 と 4 の間で薄くなっているため、同層に変位が認められないことを詳細に説明すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	44	H26. 12. 15	荒浜側の調査地点については、それぞれの位置関係がわかる資料を追加すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	45	H26. 12. 15	1号炉北側法面以外も、西山層、古安田層、番神層・大湊砂層等の上限図と、各地点の主な断層の走向や想定される地すべりの移動方向との関係を示した図を提示すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	46	H26. 12. 15	西山層の走向線図と背斜・向斜構造を記載した敷地全体の平面図に、各地点の主な断層の走向や想定される地すべりの移動方向を示した資料を提示すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	47	H26. 12. 15	1号炉北東部地点における法面 2 での観察結果と 1号炉北側法面での観察結果については、それぞれの断層の分布・性状の関係を整理すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	48	H26. 12. 15	敷地内の第四系に分布する断層のセンスについては全て正断層としているが、逆断層が無いかを確認すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
海域 地質・地質構造	49	H27. 1. 6	米山沖断層の調査結果において、KNo. 2 測線での Bu 層の堆積年代の根拠について示すこと。	H27. 4. 3審査会合コメントと重複	H27. 5. 25ヒアリングで回答
陸域 地質・地質構造	50	H27. 1. 14	中央油帯背斜を含む敷地内及び近傍に発達する褶曲構造の伸び方向の形状・変位の変化と中・上部更新統との関係を正確に理解できるよう、多くの詳細な断面図（すべての既存反射法地震探査測線沿い）と共に、詳細な地層毎（西山層～魚沼層）の走向線図や基底面の等深度線図等を作成すること。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	51	H27. 1. 14	褶曲形成史に関しては、第四紀以降の鍵層で限った時代毎の等層厚線図を作成し、その変遷と褶曲構造の活動時期との関係を示すこと。	H27. 5. 18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	52	H27. 1. 14	周辺地形の褶曲構造については、これまでの調査の結果得られた詳細データも提示すること。	H27. 4. 3ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
全体	53	H27. 1. 14	活褶曲という用語は、大きな地震とは関係なく測地学的に褶曲構造が成長する例でも用いられているので、説明資料で用いる場合の定義を明確にすること。	拝承	
上載層	54	H27. 1. 20	中子軽石層を飯縄上層c テフラに同定し、その上位にある年代精度が高いとされる田頭テフラ (129±3ka) 等との関係から年代値は約133ka でMIS6/ MIS5境界のテフラと評価しているが、中子軽石層はMIS5e 海進期後半の安田層の上位、MIS5e の海進高頂期及びそれ以降の堆積物とされる大湊砂層～番神砂層に挟まれているため、年代値はこれら堆積物の推定年代と一致しない。テフラの同定の妥当性、年代値の精度、降灰層準と再堆積との関係など、整合性が取れるよう説明すること。	H27. 2. 27審査会合と重複	
近傍 地質・地質構造	55	H27. 2. 2	敷地周辺の地質・地質構造に関する追加調査におけるボーリング調査結果の解釈について、断層として認定する際の基準（断層幅など）があれば資料に明記すること。	破砕物を伴いコアで変位が認められるものや変位が不明であっても破砕物を伴うものを断層としている。	
近傍 地質・地質構造	56	H27. 2. 23	阿多鳥浜テフラの標高分布と新潟県中越沖地震による地殻変動の関係の評価については、引間・縞縞モデルに用いられている断層パラメータを記載すること。	H27. 2. 27審査会合	
近傍 地質・地質構造	57	H27. 2. 23	平野の東側に分布する高位段丘面において阿多鳥浜テフラが見つからないか確認すること。	見つからない。	
立坑 F5	58	H27. 2. 23	F 5断層、低角度断層及び高角度断層において確認した条線については、その写真を追加するとともに、確認結果を示すこと。	H27. 4. 20ヒアリング	
立坑 F5	59	H27. 2. 23	低角度断層が正断層であることについては、ブロックサンプリングを行って説明すること。また、F 5断層との境界部の評価について説明すること。	H27. 4. 20ヒアリング	
海域 地質・地質構造	60	H27. 3. 31	敷地前面の背斜の調査結果については、B～B u層に下部の背斜構造と調和的な構造がないことを確認するため、解釈線のある海上音波探査記録と解釈線のない海上音波探査記録を提示すること。	H27. 9. 1ヒアリングにて回答予定	
陸域 地質・地質構造	61	H27. 4. 6	敷地周辺の活断層分布に関しては、副次的な断層の評価結果について説明すること。	H27. 4. 10審査会合と重複	
陸域 地質・地質構造	62	H27. 4. 6	敷地周辺陸域の活断層及びリニアメントに係る文献調査結果については、それぞれの文献がカバーしている範囲を明示すること。	H27. 6. 8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	63	H27. 4. 6	断層の各種調査結果、端部の評価結果や最終的な評価結果などの流れがわかるように情報の充実を図ること。	H27. 4. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	64	H27. 4. 6	個別の断層や連動を考慮した安全評価上の評価結果、その他リニアメントの評価結果について整理して示すこと。	H27. 6. 8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	65	H27. 4. 6	中央油帯背斜南部西縁丘陵脚部において、褶曲軸に直交する方向の安田面の地形断面図を広域的に示すこと。	H27. 6. 8ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑全体	66	H27. 4. 20	指摘事項に対する分析結果だけでなく、本説明資料の検討経緯や評価結果についても記載すること。	H27. 6. 15ヒアリング	
立坑 V2	67	H27. 4. 20	V2 立坑の西山層で行ったX線回折分析は、試料の詳細を確認するとともに、測定チャートを提示すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	68	H27. 4. 20	F5断層等の運動像の分析については、研磨片・薄片の向きと主せん断面の向きとの関係について確認すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑全体	69	H27. 4. 20	断層部の薄片観察において複合面構造を認定する際は、P面やR1面を認定する際の判断の根拠・目安を記すこと。	H27. 4. 27ヒアリング	
立坑全体	70	H27. 4. 20	研磨片観察結果については、内部の複合面構造だけでなく、主せん断面の位置についても記載すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	71	H27. 4. 20	F5断層と泥岩との境界部における動きの有無について確認すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	72	H27. 4. 20	F5横坑部東壁のスケッチについては、2条の高角度断層に分布するくさび状の地層（古安田層（シルト層（シルト角礫層））の成因等について詳細に説明すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 V2	73	H27. 4. 27	X線回折分析結果については、チャートも含めて分析試料と測定方法との関係がわかるように結果を記載すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑全体	74	H27. 4. 27	研磨片や薄片で認定した複合面構造について、認定方法に則した細部の変位や定向配列を分かるように示すこと。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 V2	75	H27. 4. 27	西山層風化部の検討については、文献の引用箇所がわかるように記載すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	76	H27. 4. 27	F5-1A（F5断層の薄片）に係る分析結果（その1）については、Y面とほぼ平行に認められるP面の解釈について説明すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	77	H27. 4. 27	F5-1B（F5断層の薄片）に係る分析結果については、Y面を記載すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
立坑 F5	78	H27. 4. 27	F5横坑部西壁のF5断層先端部付近の古安田層中の礫混じり砂層と砂礫層と層相境界について詳細に説明すること。また、F5断層先端部上位の17基に隠れる部分の高角度断層による古安田層の変形について、詳細が分かるよう写真等の情報を提示すること。	H27. 5. 11ヒアリング	
四紀断層	79	H27. 5. 11	敷地内の第四系に分布する断層の成因のまとめでは、各断層を分類した根拠について、その特徴を整理して説明すること。	H27. 5. 18ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
四紀断層	80	H27.5.18	1号炉北側法面地点における法面と断層変位との関係については、断層の走向・傾斜、法面の方向・勾配等を踏まえて実際の露頭状況を模した図面に修正すること。	H27.5.18ヒアリング	
四紀断層	81	H27.5.18	1号炉北側法面地点における小断層群Aの分布については、小段を挟んだ断層の連続性（例えば、N83E61SはN50E51Sにつながるのか）について確認すること。	H27.5.18ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	82	H27.5.18	片貝断層の南端部の止めについては、時水付近のLⅡ面に変動地形の可能性を示唆する地形が認められないことを根拠としているが、片貝断層ではLⅠ面までにしか撓曲変形が認められておらず、LⅡ面が変形していないという情報だけでは同断層の後期更新世以降の活動性を否定する根拠とならないので、再度検討すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	83	H27.5.18	片貝断層以南の片貝・真人背斜の地質構造図について、どの時代の地層の傾斜量なのかを確認できるように、地層の走向・傾斜を示した図面に地質データを追加すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	84	H27.5.18	片貝・真人背斜の構造については、反射法地震探査結果等からKa07-P2より北側とそれ以南で地質構造が異なるとしているが、浅部の変形表現が違っただけで深部に分布する一連の断層によって形成されているとも考えられるので、再度検討すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	85	H27.5.18	渋海川向斜部のリニアメントについては、片貝断層の活動に伴う副次的な構造としているが、その形成年代等について記載すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	86	H27.5.18	副次的な断層については、地震動評価における取扱いについて検討すること。	H27.7.27ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	87	H27.5.18	中央油帯背斜西沿いのMⅠ面の標高変化に関しては、柏崎平野南東縁のそれと一括して示すこと。その際、MⅠ面の分布、標高変化、基盤の地質構造との関係は、2万5千分の1地形図レベルで詳細に提示すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	88	H27.5.18	孤立した長さの短い活断層については、周辺の地質情報を示すとともに、既存の文献で示されているリニアメント等を図示すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	89	H27.5.18	雁海断層の西方延長部において直線谷が認められるが、リニアメントが判読でき、海域へ延長する可能性もあることから、詳細に確認し、説明すること。	H27.6.8ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	90	H27.5.18	細越断層周辺の久米層下部に狭在する吉水テフラについては、文献等に基づいた同定結果、堆積年代等の根拠を記載すること。	H27.6.8ヒアリング	
海域 地質・地質構造	91	H27.5.25	佐渡島南方断層については、東傾斜の逆断層にも関わらず、音波探査記録の両端ではF層の上面が西側の方が高くなっているため、その要因について説明すること。	詳細は不明であるが、その他活構造の影響等が推定される。	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
近傍 地質・地質構造	92	H27.6.1	バランス断面法に係る初期モデルの設定について参考になっている反射断面解釈図ML08-2では、T層(Sタフ、Pタフ)の層厚が断層を挟んで異なるが、正断層として動いた後に逆断層として動いたと推定すると、深部に変位・変形が認められることも考えられるので確認すること。	真殿坂断層を境にして、Sタフ以深の地層構造に違いが認められないことから、当断層は地下深部に連続していないと判断される。	
陸域 地質・地質構造	93	H27.6.8	片貝断層の南端や孤立した長さの短い活断層の端部については、断層長さとして評価した地点がわかるように図示すること。	H27.6.19審査会合	
陸域 地質・地質構造	94	H27.6.8	中央油帯背斜南部の評価については、MI面の高度分布の状況等を含めて詳細に記載すること。また、MI面の詳細地形断面図については、a-a'面において西元寺の西側のMI面も記載するとともに、6-6'断面においてその西方延長部に長崎付近で認められるMI面も含めた断面図を作成すること。	H27.6.19審査会合	
陸域 地質・地質構造	95	H27.6.8	浸食地形と判断したりニアメントについては、露頭位置等に記載のある区分線を確認すること。	H27.6.19審査会合	
陸域 地質・地質構造	96	H27.6.8	新潟県中越沖地震後に報告された露頭の評価について、文献で記載されている安田層が東京電力の区分で何層に対比されるか確認すること。	詳細は不明であるが、当該地点近傍の長崎測線のボーリング調査結果によると、安田層下部層である可能性が高いと考えられる。	
立坑 V2	97	H27.6.15	V2立坑の西山層泥岩の化学分析において、H20-を求めた試験規格を示すとともに、自然乾燥状態での分析に用いた試料が、以前の分析試料とは厳密には異なる点を明記すること。	H27.6.26審査会合	
立坑 F3	98	H27.6.15	沖積層と西山層の境界部のCT画像について、画像の濃淡は、物質の密度に関係し、一般にシルトに比べて砂の密度は高く、西山層(泥岩)に比べて沖積層(砂層)の密度が高いとしているが、密度に関してはそれぞれの比重を計測する等、その根拠を客観的に示すこと。	H27.7.21ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	99	H27.6.15	β 断層における固結度と変位量との関係について、重力性のすべりとの関連性も含めて説明すること。	H27.6.26審査会合	
$\alpha \cdot \beta$	100	H27.6.15	β 断層の深部の止めにに関して、A-4孔および#1-3孔における変位量は深度方向減少しているにもかかわらず、地下深部に連続しないと判断した根拠について詳細に説明すること。また、A-4孔におけるNt-18の位置については、確認および投影に関する表現に対しては正確に明記すること。	H27.6.26審査会合	
四紀断層	101	H27.6.15	1号炉北側法面スケッチにおいて、 α 断層直上に部分的に存在する大湊砂層と古安田層については、境界部の連続性も含めて確認できる資料があれば提示した上で説明すること。	ご指摘の資料については、これまで提示した以外にない。	
$\alpha \cdot \beta$	102	H27.6.15	$\alpha \cdot \beta$ 断層の変位量の評価については、鍵層が平行に分布し、かつ間隔が一定であることから、小断層による影響はないと判断しているが、小断層が層理面に対して低角になっている部分についても同様なことが言えるか説明すること。	H27.6.26審査会合	
立坑 F5	103	H27.6.15	F5-11孔の割れ目については、掘削後に生じたとする根拠がないのであれば、表現を改めること。	H27.7.21ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	104	H27. 6. 15	F5 断層先端部について、断層の上盤全体が動く場合には、ノジュール偽礫のような盛り上がりは出来ないため、更なる考察を行うとともに、変位・変形の運動像を詳細に説明すること。	H27. 6. 26審査会合	
立坑 F5	105	H27. 6. 15	F5 断層にみられる2方向のP面については、Y面との角度を判断材料としているが、当初の判定手法部分に反映させたうえで、全ての観察に適応したことを確認すること。	H27. 7. 21ヒアリング	
$\alpha \cdot \beta$	106	H27. 6. 15	$\alpha \cdot \beta$ 断層に関するX線回折分析結果において、破碎部の試料に関してはその幅と固結状況を追記すること。	H27. 6. 26審査会合	
$\alpha \cdot \beta$	107	H27. 6. 15	$\alpha \cdot \beta$ 断層の活動性に関する評価において、古安田層を切る動きについては、重力性のすべりとの関連性も含めて、詳細に説明すること。	H27. 6. 26審査会合	
四紀断層	108	H27. 6. 15	旧青山農場地点の断層については、推定する断層面がNo. 100等において確認できているのか、再度説明すること。	H27. 6. 26審査会合	
立坑 F5	109	H27. 6. 15	F5 断層先端部の断層粘土の分布状況については、F5 横坑部西壁17 基裏のノジュール部分の写真も示すこと。	H27. 6. 26審査会合	
海域 地質・地質構造	110	H27. 6. 29	産総研の評価と米山沖断層の関係については、地質構造が西傾斜から東傾斜に変わる箇所を図示するとともに、国交省等による日本海洋波検討会における海域断層の評価結果についても提示すること。	H27. 7. 10審査会合	
近傍 地質・地質構造	111	H27. 6. 29	中越沖地震後に報告された露頭については、震源として考慮すべき断層かどうかという観点から、その評価について詳細に記載すること。	H27. 7. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	112	H27. 7. 6	中央丘陵西縁部断層については、気比ノ宮断層の活動性に伴う副次的な構造と判断しているが、深部においては不明確であり、バックスラストの可能性もあるため、その根拠について詳細に説明すること。	H27. 7. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	113	H27. 7. 6	角田・弥彦断層の評価について、稲島付近のM I面の傾動を勾配等の具体的な数値によって示すこと。	H27. 7. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	114	H27. 7. 6	中央丘陵西縁部断層の評価において、反射法断面に示されている鍵層の連続性については、ボーリングによって位置確認されているのであれば示すこと。また、反射画像から推定している区間は、そのように記すこと。	H27. 7. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	115	H27. 7. 6	中央油帯背斜は、新潟県中越沖地震の際に背斜軸に沿った地表の隆起が確認されているので、段丘面の分布高度や勾配等と褶曲構造の関係を詳細に説明すること。	H27. 7. 10審査会合	
陸域 地質・地質構造	116	H27. 7. 6	新潟県中越沖地震の際に柏崎市から新潟市にかけての隆起がどの様であったか、隆起量の変化も含めて中央油帯背斜との関連性について説明すること。	H27. 7. 10審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
海域 地質・地質構造	117	H27.7.6	各断層の評価については、陸域と同様に断層の評価の冒頭に概要として示すこと。	H27.7.10審査会合	
海域 地質・地質構造	118	H27.7.6	F-B 褶曲群とF-D 褶曲群及び高田沖褶曲群の連動可能性の評価については、重力異常との対応関係と平均速度が異なることを理由に連動性を否定しているが、既往文献等を含めてその根拠を詳細に示すこと。	H27.7.10審査会合	
海域 地質・地質構造	119	H27.7.6	米山沖断層の北端の評価については、背斜構造の形態の違いにより判断しているが、ガイドに従って上載層（Bu 層）が存在しない場合には中期更新世以降（40 万年前以降）の地層の変位・変形によって判断すべきではないのか。	H27.7.10審査会合	
海域 地質・地質構造	120	H27.7.6	敷地前面の背斜については、岡村(2010)において活動性を停止した活構造とされた根拠について確認すること。	H27.7.10審査会合	
陸域 地質・地質構造	121	H27.7.6	角田山付近に分布するM I 段丘面については、竹野町層との関係性も含めて、データを提示した上で詳細に説明すること。	H27.7.10審査会合	
上載層	122	H27.7.13	中子軽石の年代評価については、飯縄上樽c テフラとの対比を踏まえ、既往説明での年代評価と誤差があると考えるのであれば、その考えを記すこと。また、大湊砂層が中子軽石層の降下時期であるMIS6 から5eの境界時期である急激な海進時期に堆積を始めていたとする根拠を説明すること。	H27.8.4ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	123	H27.7.13	真殿坂断層に関する評価については、同断層がS タフに収斂する構造であるとしているが、石油公団等他機関が実施したボーリング調査でS タフの写真等があるか確認すること。	H27.8.4ヒアリング	
寺尾	124	H27.7.13	寺尾地点の断層面の条線観察結果については、ステレオネットから応力場を推定できないか確認すること。また、条線方向の表記について見直すこと。	H27.8.4ヒアリング	
寺尾	125	H27.7.13	寺尾地点の地すべり概念図については、側方崖のハの字状の広がりなど、このモデルを現地地形や平面図上に落とし込んだときに合理的な説明が可能かどうかを説明すること。	H27.8.4ヒアリング	
寺尾	126	H27.7.13	寺尾地点における椎谷層の構造については、BTV で確認した椎谷層中の鍵層の走向・傾斜を考慮して整理・描画すること。	H27.8.4ヒアリング	
寺尾	127	H27.7.13	寺尾地点において現地調査後に実施したボーリング調査のコア写真、柱状図、ポアホールテレビカメラの結果を提示すること。	H27.8.4ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	128	H27.7.13	敷地近傍における真殿坂向斜等の評価については、その目的等を整理して説明すること。	H27.8.4ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	129	H27.7.21	V 系断層および①・②断層の評価については、古安田層と阿多鳥浜テフラとの年代関係および止めの根拠も含めて詳細に説明すること。	H27.8.7審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
敷地内 地質・地質構造	130	H27.7.21	追加調査によるV系、F系以外の高角および低角系断層についても、活動年代をバーチャート等により示した上で整理すること。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	131	H27.7.21	α ・ β 断層の活動性については、活動模式図①（前期更新世）と③a（中期更新世）におけるすべりの性状の差異等、1号炉北側法面における β 断層と低角度小断層との関係も含めて詳細に説明すること。	α ・ β 断層の西山層上限面付近の地質観察結果について、これまで提出した資料以外はない。	
敷地内 地質・地質構造	132	H27.7.21	第四系中の西山層上限面については、分布のコンターをカラーにする等、その起伏が判る様にする。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	133	H27.7.21	3号炉および4号炉付近の基盤上限面の谷地形については、現在の測線のさらに東に存在する谷地形まで測線を延長した上で地質断面図を示すこと。また、この谷地形についても、データ確認した上で、断層構造が存在するか否かも含めて詳細に説明すること。	H27.9.7ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	134	H27.7.21	基盤上限面の傾斜変換線を挟む東西方向の地質断面図においては、古安田層内の鍵層や阿多島浜テフラについてデータ確認した上で対比線を図示すること。	H27.8.7審査会合	
敷地内 地質・地質構造	135	H27.7.27	褶曲運動に伴うF5断層の活動時期と①・②・F5断層に囲まれた土塊に地すべりが生じた時期について整理すること。	H27.9.7ヒアリングにて回答	
上載層	136	H27.7.27	大湊砂層の地質年代については、海水準変動も考慮して、大湊砂層の現在の標高と堆積時の標高から隆起速度を求めることにより検討できないか確認すること。	番神砂層/大湊砂層境界(MIS5e)は、現在の標高でおおよそ35mに分布する。MIS5eの海面は、現海面より5m程度高かったことを考慮すると、隆起速度は0.3m/千年程度となり、他の地域の隆起速度と大きく異なることはない。	
敷地内 地質・地質構造	137	H27.7.27	①坑南側壁における①断層の活動性に評価に係る写真については、資料に掲載されているもの以外に写真、スケッチ等があれば追加すること。	H27.8.4ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	138	H27.8.4	荒浜側の断層の活動性評価において、①坑南側壁の写真については、もう少し鮮明なものに変更すること。	H27.8.7審査会合	
寺尾	139	H27.8.4	寺尾付近の断層による多重逆解法に用いたデータセットを提示すること。	H27.9.1ヒアリング	
上載層	140	H27.8.4	刈羽テフラと下北半島東方沖のテフラの対比については、G10テフラだけでなく、G9テフラやG7テフラなどできるだけ多くのGシリーズテフラの主成分分析と比較した結果を示し、その妥当性について説明すること。	H27.9.1ヒアリング	
上載層	141	H27.8.4	G10テフラの給源や分布範囲等の基本データについて提示すること。	不明	
上載層	142	H27.8.4	刈羽テフラについては、K-Ar年代測定法により年代評価ができないかを検討すること。	刈羽テフラは阿多島浜テフラの上位層順にあるが、阿多島浜テフラよりも古い測定結果が出たため、棄却する。	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
上載層	143	H27.9.7	中子軽石層の年代評価については、テフラ対比や花粉分析・年代測定結果を総合的に評価した結果である点、既往の酸素同位体ステージの図中に表現する際は、年代測定の精度を踏まえた説明を加えて図示の方法も修正すること。	H27.9.18審査会合	
北2（西元寺）	144	H27.9.7	北-2測線で確認されたテフラ等が概ね水平に分布していることのロジックをできるだけ定量的なデータを示して説明すること。	H27.9.18審査会合	
北2（西元寺）	145	H27.9.7	北-2測線で確認された刈羽テフラについては、後谷背斜付近、真殿坂向斜付近等で標高差が認められることから、その傾斜を求めるとともに、この周辺に分布する段丘面の傾斜との関係等を確認すること。	H27.9.18審査会合	
寺尾	146	H27.9.7	寺尾地点の断層面の条線観察結果については、椎谷層中の断層、古安田層中の共役断層、A断層の切り切れ関係等を確認して、その形成年代の順序について言及できるのであれば記載すること。	地質調査からはこれらの断層の形成順序に関するデータはないものの、分布や変位などの状況から、ほぼ同時期に形成されたものと推定される。	
寺尾	147	H27.9.7	寺尾付近の断層に係るトレンチ調査結果については、鉛直変位量が最新のデータに基づくものかを確認するとともに、その測定結果の一覧表を追加して、A断層の変位累積評価を加えること。	H27.9.18審査会合	
寺尾	148	H27.9.7	寺尾付近の断層に係るボーリング・BTV調査結果については、断層面、層理面や節理面の条線観察結果を孔ごとにステレオネットに整理した上で、方位傾向を比較すること。	H27.9.14ヒアリング	
寺尾	149	H27.9.7	寺尾地点に認められる断層条線からの応力場の推定については、古安田層以上の地層に認められる断層だけでなく、古安田層より下位の地層に認められる断層についても解析し、その結果について提示すること。	H27.9.14ヒアリング	
寺尾	150	H27.9.7	寺尾地点の地すべり概念図については、その平面図にA断層との関係を記載すること。	H27.9.18審査会合	
敷地内 地質・地質構造	151	H27.9.7	F3断層の活動性評価については、極わずかではあるが古安田層に変位を与えているので、もう少し詳細に説明すること。	H27.9.28ヒアリング	
立坑 F5	152	H27.9.7	F5断層の活動性評価については、高角度断層がMIS7の堆積物には変位を与えていないことの根拠として、F5-8～F5-10のMIS7中のコア写真、柱状図等を提示すること。	H27.10.5ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	153	H27.9.7	3V系断層の上方延長部において、砂礫層等が水平に分布し、古安田層に変位を与えていないことをもう少しわかりやすく記載すること。	H27.9.28ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	154	H27.9.7	断層と各層上限面の関係については、寺尾地点のような地層陥没構造の有無を確認する観点から、基盤の凹みとその上位層の凹みが一致しているようなところが重要施設設置位置付近にないかを確認すること。	H27.10.5ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	155	H27.9.7	敷地内の断層の性状については、第四系に分布する断層の性状でとりまとめた一覧表形式と同様に、それ以外の断層についても整理して示すこと。	H27.9.28ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	156	H27.9.28	大湊側の断層評価の小括において、「なお」以降の記載については、各断層の評価結果等も踏まえた記載に見直すこと。	H27.10.9審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
敷地内 地質・地質構造	157	H27. 9. 28	耐震重要施設及び重大事故等対処施設の断層において、「①及び②の施設については西山層に「将来活動する可能性のある断層等の露頭が無いことを確認」する」の記載については、もう少し丁寧な表現に見直すこと。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	158	H27. 9. 28	耐震重要施設及び重大事故等対処施設の断層において、各施設の断面図中の鍵層等については、そのポーリング柱状図等も提示すること。また、各施設の断面図中の火山灰層については、それらが確認された標高を記載すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	159	H27. 9. 28	耐震重要施設及び重大事故等対処施設の断層において、西山層に支持される常設代替交流電源設備についても、その断面図を提示すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	160	H27. 9. 28	第四紀層支持の施設の配置図については、凡例の位置を変更するとともに、真殿坂向斜軸の位置を追記すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	161	H27. 9. 28	耐震重要施設及び重大事故等対処施設の断層において、C-C' 断面の海-5 ポーリングについては、T.P.-100m 以深のデータがないかを確認すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	162	H27. 10. 5	「5. 耐震重要施設等及び重大事故等対処施設下の断層」については、そのタイトルを再考するとともに、「4. その他の断層」も含めてその構成を見直すこと。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	163	H27. 10. 5	本資料から参考資料に移した内容については、本資料に関連する参考資料のページを記載すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	164	H27. 10. 5	荒浜側の敷地内地質調査の概要において、コンター図については、何を示すコンターかを凡例に追加するとともに、資料集のコンター図との関係を確認すること。	H27. 10. 9審査会合	
$\alpha \cdot \beta$	165	H27. 10. 5	$\alpha \cdot \beta$ 断層の活動模式図については、F5 断層と同様に、参考資料に移すこと。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	166	H27. 10. 5	西山層支持の施設において、その断面図の椎谷層中の断層について確認し、説明すること。また、「第四系には規模の大きな断層は確認されていない。」という記載については、新規制基準の要求事項を踏まえて修正すること。	H27. 10. 9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	167	H27. 10. 5	西山層だけでなく、その上位に分布する古安田層についても、鍵層や火山灰層等が認められるのであれば、その分布標高も含めて追記すること。また、平面図や断面図にも褶曲軸、火山灰層等の分布標高を追記すること。古安田層の地質凡例における層相の記載を統一すること。	H27. 10. 9審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
敷地内 地質・地質構造	168	H27.10.5	第四紀層支持の施設において、 α 断層及び β 断層については、凡例における表記を整理し、見直すこと。	H27.10.9審査会合	
敷地内 地質・地質構造	169	H27.10.5	施設位置と各層上限面との関係については、後谷背斜の北側に20~30mの落差がある北東-南西方向の谷地形があり、寺尾地点で認められるような断層がないかを確認するため、今後、詳細な断面図を提示すること。	H28.4.11ヒアリングにて回答予定	
立坑 F5	170	H27.10.26	F5断層の活動性に係る検討については、赤丸の変位と青丸の変位とが別々の要因で生じたケースと同じイベントで生じたケースとの両論を記載し、どちらのケースの確度が高いかといった流れで整理すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	171	H27.10.26	F5断層の分布（汀線並行方向断面）において、「N1」の凡例を追加すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	172	H27.10.26	F系断層の成因において、「褶曲運動に伴って層理面などの上盤側が逆断層的にすべる」という記載については、上盤側だけではないので、「の上盤側」を削除すること。また、5号炉試掘坑調査結果については、F3-1断層がV3断層を挟んで東側に連続していないかを確認すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	173	H27.10.26	褶曲の活動性（敷地内の断層の活動性）において、それぞれの断層の切り切られの関係についても記載すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	174	H27.10.26	F5立坑調査結果において、地質断面図に記載されている高角度断層については、古安田層中に認められる高角度断層と区別する必要があるので別の断層名を付けて整理すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	175	H27.10.26	F5断層の活動性に係る検討において、高角度断層の変位量区分のうち赤丸については、凡例を見直すこと。また、鍵層の深度等を記載した詳細なデータを追加すること。	H27.11.9ヒアリング	
立坑 F5	176	H27.11.4	F5断層の活動性に係る検討において、地層の傾斜については、MIS9の地層の勾配だけでなく、MIS7の地層の勾配の測定についても検討すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	177	H27.11.4	F5断層の活動性に係るまとめにおいて、例えば、「標高-30m以浅の上載層に変位・変形は認められず」という記載については、標高-30m以浅でも変位は認められるので、F5断層に関連した変位・変形は認められないといった主旨に修正するなど適切な記載に見直すこと。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	178	H27.11.4	F5断層の活動性に係る検討において、F5立坑ボーリング調査結果については、鍵層等の特徴、認定根拠等を整理して提示すること。また、生物学的指標等がないか確認すること。	H27.12.2審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	179	H27.11.16	MIS7 堆積物中における傾斜および腐植土の段差については、データ拡充をした上で詳細に説明すること。	H27.12.14ヒアリング	
立坑 F5	180	H27.11.16	F5 立坑近傍の層相境界勾配については、具体的に傾斜勾配の値を示すこと。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	181	H27.11.16	上田（1999）における模型実験については、基盤における変位を明記すること。また、これまで事業者から説明のあったF5 断層の運動像との整合性についても整理した上で説明すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	182	H27.11.16	F5 断層の活動性については、MIS7 堆積物の不整合性も含めた堆積性と、褶曲構造及び阿多鳥浜テラフとの関係性も踏まえた上で、詳細に説明すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	183	H27.11.24	ボーリングコアからF5 断層を認定するに際しては、層序関係等から認定しているのであれば、その関係を確認するために、ボーリング調査で複数のF5 が確認できている地質断面図を提示すること。	H27.11.30ヒアリング	
立坑 F5	184	H27.11.24	F5 断層の運動センスについては、試掘坑調査、ボーリング調査や立坑調査における条線観察等から評価しているが、その結果については断定的な記載ではなく、もう少し適切な表現に修正すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	185	H27.11.24	F5立坑周辺における正断層の分布状況の確認結果については、立坑の西側だけでなく、東側も含め、もう少し想定分布範囲を広げてその確認結果を提示すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	186	H27.11.30	褶曲構造に関連しないF5 断層の運動に関する調査・評価において、ボーリングコア写真に記載されている断面図に記載した深度の位置を示す矢印については、それに対応する記事の記載も踏まえて、その表示の考え方を確認すること。	赤い線はボーリングコアにおける断層位置を示し、標高はその中央値を示している。	
立坑 F5	187	H27.11.30	褶曲構造に関連したF5 断層の運動に関する調査・評価において、「調査位置・手法の適切性」については、「調査位置・手法の概要」として、冒頭に記載すること。	H27.12.2審査会合	
立坑 F5	188	H27.12.7	現存するボーリングコアについては、再度確認するとともに、必要に応じて別角度の写真を用意すること。	追加調査を実施して新しいデータを取得	
立坑 F5	189	H27.12.14	F5-11孔の腐食層の傾斜については、各ボーリングの標高を合わせたものを提示すること。	H27.12.21ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	190	H27.12.14	F5-11 孔の標高-18.65m で腐食層が傾斜した部分は、最も急傾斜しているところの上下で傾斜がどのように変化するかを、またその性状を確認するとともに、急傾斜構造が確認されたボーリングに隣接するボーリングコアへの連続性の有無を確認すること。また、他に同様の構造が認められるのかを確認し、説明すること。	H27.12.21ヒアリング	
立坑 F5	191	H27.12.14	F5 群列ボーリング調査結果に基づくMIS7 堆積物の地質断面図において、MIS9 堆積物についても、同様に提示するとともに、スランプ相が確認された箇所等の情報を追加すること。	H28.2.8ヒアリング	
立坑 F5	192	H27.12.14	F5 立坑北側のボーリング柱状図やコア写真については、4R-1 や 4-5 だけでなく、4R-3 や #4 についても提示すること。	追加調査を実施して新しいデータを取得	
立坑 F5	193	H27.12.21	F5-11 孔の腐植層の傾斜において、地層が傾斜している区間の拡大写真については、何を指標としてボーリングコアの境界部を合わせたのかがわかるように明記すること。	H28.1.5ヒアリング	
立坑 F5	194	H27.12.21	F5-11 孔の腐植層の傾斜については、スランプを成因と考えるのであれば、スランプ層が他のボーリング孔の特定の層準にないかを確認すること。	H28.1.5ヒアリング	
立坑 F5	195	H27.12.21	審査会合でのコメントに対する回答を踏まえたF5 断層の活動性評価について追記すること。	H28.1.25ヒアリング	
立坑 F5	196	H28.1.5	古安田層の名称において、同層の定義については、海洋酸素同位体ステージではなく、不整合関係を含めた地質層序を踏まえ、もう少しいいに記載すること。	H28.1.25ヒアリング	
立坑 F5	197	H28.1.5	F5-7' 孔の筋状模様において、掘削時のスリーブによるキズについては、どのタイミングにどのようにしてできたかを確認すること。	ボーリングコア採取時に生じたものと考えられる。	
立坑 F5	198	H28.1.5	地層の対比において、腐植層を鍵層とする②⑥については、F5-11 孔では局所的にある程度の層厚があるようにも見えたとともに、ノジュールを鍵層としている箇所については、ノジュールに厚みがあり、勾配の算定にばらつきがあることも踏まえ、その対比について再度確認すること。	H28.2.2ヒアリング	
立坑 F5	199	H28.1.5	応力場に係る文献調査、測量結果については、褶曲形成時と現在の応力場に関する考察についても追記すること。	H28.1.25ヒアリング	
立坑 F5	200	H28.1.25	F5 断層の活動性調査結果等において、今回追加で実施したボーリングとそれ以外のものがわかるように記載すること。	H28.2.2ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	201	H28. 1. 25	F5 断層のボーリング調査結果において、MIS9 堆積物の分布については、その妥当性を確認する観点から、A断面図等の広範囲な断面図にMIS7とMIS9 との地層境界を示すこと。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	202	H28. 1. 25	地質断面図上でのMIS9 堆積物の堆積形態については、F5 断層の傾斜と調和的に見えることから、MIS9 とその下位及び上位層との不整合関係がわかるデータを提示すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	203	H28. 1. 25	MIS9 堆積物の堆積構造については、BHTV 観察結果やボーリング調査結果に係る情報を整理して説明するとともに、その走向をシュミットネットで整理すること。	MIS9堆積物は塊状無層理のシルトを主体とするため、堆積構造については不明。	
立坑 F5	204	H28. 1. 25	F5-17 孔の標高-30m から-31m の間において、西山層中に高角度の断層が認められるので、その詳細について説明すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	205	H28. 1. 25	F5 断層上載層の年代については、細粒火山灰が阿多鳥浜テフラに対比されることを確認したボーリングとしていないものがかかるように記載するとともに、それを確認していないものについては阿多鳥浜テフラに対比されると判断する根拠を記載すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	206	H28. 1. 25	古安田層の地質・地質構造において、シルト質砂～砂とその上位の地層との境界部については、その図示の方法を整理して記載すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	207	H28. 1. 25	F5 断層の運動像において、ボーリングコアの幅の中でF5 断層がどのように認められているかがわかるように図示するとともに、F5 断層をどのように見ているかがわかるように記載すること。	H28. 2. 2ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	208	H28. 1. 25	F5 断層のまとめにおいて、条線観察結果については、敷地内の他の地点における条線観察結果との関係性についても言及すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	209	H28. 1. 25	古安田層中の小断層において、そのスクリーニング方法をフローで示すこと。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	210	H28. 1. 25	評価後の小断層については、BHTV 観察結果に基づく走向・傾斜を記載すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	211	H28. 1. 25	BHTV 観察結果から走向がF5 の走向と調和的でないものと記載する根拠として、BHTV 観察結果に基づく走向をシュミットネットで整理すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	212	H28. 1. 25	MIS7 堆積物については、BHTV 測定をほとんど実施していないことから、正断層の活動に関連する可能性のある小断層ではないと判断する根拠を詳細に説明すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	213	H28. 1. 25	F5 断層とは関係ないものと判断する根拠として、断層の幾何学的な観点も加えること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	214	H28. 1. 25	4号炉南側のボーリング調査結果において、そのまとめについては、F5 立坑ボーリング調査結果と整合していると記載しているが、本調査結果の位置付けについて整理すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	215	H28. 1. 25	古安田層中のMIS9 堆積物の上限面の標高については、F5-12 孔だけでなく、4R-2 孔も記載すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	216	H28. 1. 25	今回提示があった荒浜側防潮堤付近のF5 断層に関する追加ボーリング調査結果については、今後、現地においてその性状等を詳細に説明すること。	H28. 2. 2ヒアリング	
立坑 F5	217	H28. 2. 2	古安田層の地質・地質構造（荒浜側防潮堤付近）において、鍵層のうち代表的なものについては、その性状等がわかるように接写写真を追加すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	218	H28. 2. 2	F5 断層の運動像（荒浜側防潮堤付近）において、F5 立坑で確認された正断層センスの示す条線観察の結果も提示すること。	H28. 2. 12審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	219	H28. 2. 2	F5断層の運動像については、ボーリングコアの条線方向による確認だけでなく、CT等で断層全体の運動像を確認するも検討すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	220	H28. 2. 2	古安田層の地質・地質構造（荒浜側防潮堤付近）及び古安田層中に小断層の評価（荒浜側防潮堤付近）の断面図中に各ボーリング孔で確認されたテフラを追記すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	221	H28. 2. 2	古安田層中に小断層の評価（荒浜側防潮堤付近）において、スクリーニングのための小断層の特徴（項目）については、その性状（走向・傾斜、変位）や連続性だけでなく、F5立坑付近のボーリング調査で確認された高角度断層の性状等も参照しつつ、例えば、粘土の有無といった観点も加えて、その考え方を整理すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	222	H28. 2. 2	スクリーニングを踏まえて抽出された小断層の性状等がわかるようにその接写写真を追加すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	223	H28. 2. 2	古安田層中の小断層（全て）については、MIS7堆積物の上位に小断層が集中して認められるので、その成因について検討すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	224	H28. 2. 2	古安田層中の小断層の方向性（荒浜側防潮堤付近）において、シュミットネットに整理したものについては、小断層の性状一覧の番号を付与し、その対応関係がわかるように整理すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	225	H28. 2. 2	F5-11孔の深度24m付近において、10°～20°の傾斜が認められ、その上位も5°程度傾斜しているので、その性状等について詳細に説明すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	226	H28. 2. 2	F5-17孔の深度約-30.1～-30.5mにおいて、地すべり土塊が認められるので、その構造について詳細に説明すること。また、白っぽいシルト質細粒砂がMIS9堆積物ではなく、MIS7堆積物に対比できることを再度確認し、詳細に説明すること。	H28. 2. 2現地にて確認	
立坑 F5	227	H28. 2. 2	層相区分の妥当性を補強する観点から、ボーリングコアの帯磁率を計測し、その結果を提示すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	228	H28. 2. 2	全てのポアホールテレビの画像を提示すること。	H28. 2. 12審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	229	H28. 2. 8	荒浜側防潮堤付近ボーリング調査位置等において、西山層上限の等高線図については、追加ボーリング調査結果等に基づきデータを更新したのであれば、その旨を記載すること。	H28. 4. 11ヒアリングにて回答予定	
立坑 F5	230	H28. 2. 8	荒浜側防潮堤付近の地質において、各ボーリング孔で確認された鍵層に関する説明を追加すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	231	H28. 2. 8	荒浜側防潮堤付近の地質F5 断層の運動像において、参考として記載しているF5 立坑で見られたF5 断層等の条線については、その運動像（正断層センスを示すこと）を追記すること。条線観察の結果については、「F5 断層の最大傾斜方向の条線は認められない」とする記載とそれに対応したシュミットネットに基づく条線観察結果に係る記載とが整合していないので、記載の統一を図ること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	232	H28. 2. 8	F5 断層CT スキャン結果（荒浜側防潮堤）において、そのスケールを記載するとともに、断層の傾斜方向が合うようにコアの向きを揃えること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	233	H28. 2. 8	古安田層中の小断層の評価（荒浜側防潮堤付近）において、F5-14 孔 番号7やF5-13 孔 番号17 については、それらの角度に係る記載を再度確認すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	234	H28. 2. 8	古安田層中MIS7 堆積物中に認められる小断層については、断層粘土の有無も記載すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	235	H28. 2. 8	古安田層中MIS7 堆積物中に認められる小断層の成因については古安田層の堆積状況も踏まえて記載すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	236	H28. 2. 8	4号炉南側のボーリング調査結果については、F5-12 孔で確認された事実関係に基づいて説明すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	237	H28. 2. 8	F5 断層に関する調査・評価に係るこれまでの審査の概要を追加すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	238	H28. 2. 8	F5 断層の条線方向については、シュミットネットとウルフネットとが混在しているので整理するとともに、N の向き、背斜軸の方向や説明等、体裁を統一させること。	H28. 2. 12審査会合	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
立坑 F5	239	H28. 2. 8	F5 断層の条線方向については、シュミットネットとウルフネットとが混在しているので整理するとともに、N の向き、背斜軸の方向や説明等、体裁を統一させること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	240	H28. 2. 8	F5 立坑ボーリング調査等において、層相対比線の勾配については、その区分を正確に記載すること。	H28. 2. 12審査会合	
立坑 F5	241	H28. 2. 8	ボーリング柱状図において、その凡例を丁寧に記載すること。	H28. 2. 12審査会合	
全体	242	H28. 4. 18	検討・反映事項については、まとめ資料に反映すべきコメント等を追記すること。	H28. 4. 25ヒアリング	
全体	243	H28. 4. 18	地盤、地震等のまとめ資料において、検討・反映事項等に係る概要を追加すること。また、追加検討した項目については、検討の背景等、その導入部を追記すること。また、「まとめ」の中の記載については、「判断される」等、語尾が受け身の表現となっているので確認すること。	H28. 5. 9ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	244	H28. 4. 18	敷地の地質・地質構造において、F5 断層及び一連の正断層の評価に係る応力場の検討については、その内容が重複しているので整理して記載すること。	H28. 5. 9ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	245	H28. 4. 18	敷地の地質・地質構造の参考資料において、敷地北部の基盤上限面の谷地形については、その平面図と断面図とが整合するように図示すること。	H28. 7. 4ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	246	H28. 4. 18	敷地近傍の地質・地質構造において、その「まとめ」の結論については、「将来活動する可能性のある断層等」と「震源として考慮する活断層」とが混在しているので整理すること。	H28. 5. 9ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	247	H28. 4. 18	敷地周辺陸域の地質・地質構造において、孤立した長さの短い活断層については、その地震動評価での取扱いを追記すること。	H28. 7. 4ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	248	H28. 4. 18	敷地周辺陸域の地質・地質構造の参考資料において、孤立した長さの短い活断層については、その評価結果を参考資料ではなく本資料に記載すること。	H28. 5. 9ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	249	H28. 5. 9	敷地周辺陸域、敷地周辺海域の地質・地質構造の概要において、地質調査結果としての断層長さや地震動評価として連動を考慮した断層長さなどがわかるように記載すること。敷地周辺陸域の地質・地質構造の概要において、活断層及びリニアメント一覧については、文献によるものではなく、地質調査結果等によるものを記載すること。	H28. 7. 4ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
近傍 地質・地質構造	250	H28.5.9	敷地近傍の地質・地質構造において、敷地近傍の地質構造（反射法地震探査結果（南-1測線））については、その検討結果の記載箇所がわかるように工夫すること。	H28.7.4ヒアリング	
近傍 地質・地質構造	251	H28.5.9	古安田層の年代に関する評価については、その検討の背景や不整合関係も含めて、もう少し詳細に記載すること。	H28.7.4ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	252	H28.5.9	一連の正断層の評価に係る地質・地質構造（文献調査）については、その断層変位の状況がわかるように工夫すること。	H28.7.4ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
現地調査コメント					
北2（西元寺）	1	H26.10.31	ボーリング孔間が離れている北2-④孔と北2-⑤孔の間にボーリングの追加を検討すること。	拝承	
長嶺・高町背斜	2	H26.10.31	長嶺・高町背斜と段丘面の関係を広範囲に確認するため、東側の沖積層分布域までボーリングの追加を検討すること。	H26.10.30～31現地調査	
上載層	3	H26.10.31	安田層、古安田層の不整合境界を堆積物が粗粒化する部分として説明しているが、説明の場所以外にも粗粒化する場所があるため、なぜ古安田層と言えるのかエビデンスを明確にすること。	H26.10.30～31現地調査	
敷地内 地質・地質構造	4	H26.10.31	敷地内の古安田層の中に、断層が確認される。全ての断層を説明するわけにはいかないかもしれないが、どこにどのような断層があるのか説明して欲しい。	H26.12.15ヒアリング	
上載層	5	H26.10.31	古安田層上部にあるy-1火山灰の年代を明らかにしてもらいたい。	H27.1.20ヒアリング	
上載層	6	H26.10.31	安田層にも古安田層にも黒い鉱物を含む部分があり、対比が難しい。安田層に年代の指標がないので、年代を決める指標がないか検討して欲しい。	H27.1.20ヒアリング	
上載層	7	H26.10.31	古安田層から安田層に変わる時代はMIS6の寒冷期からMIS5eの温暖期に変わっているはずなのに岩相が変わっていないのが気になる。	H27.1.20ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	8	H26.10.31	敷地のV系の断層は、後谷背斜のブランチに伴うものと説明しており、阿多鳥浜の標高差がブランチの成長によって生じているとしたら、後谷背斜が成長していることになるので阿多鳥浜の標高差の原因について説明すること。	H27.2.27審査会合	
敷地内 地質・地質構造	9	H26.10.31	古安田層は敷地でほぼ水平に堆積していると説明しているが、コアで見られる傾斜は、20°程度傾斜している部分もあった。追加調査では古安田層の傾斜についても検討して欲しい。	H26.10.30～31現地調査	
近傍 地質・地質構造	10	H26.10.31	地点6で確認した小断層について、正断層との理由で否定せずテクトニクスとの関係で合理的に説明して欲しい。	H27.3.17現地調査	
上載層	11	H26.10.31	古安田層の層厚がかなり厚く、ステージ7の環境だけで説明するのは難しいのではないか。古安田層の上部の年代が示せると良い。	H27.1.20ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	12	H26.10.31	敷地近傍及び敷地の火山灰の分布標高の違いについて説明すること	H27.2.27審査会合	
敷地内 地質・地質構造	13	H26.10.31	敷地内の断層の連続性について、西山層中の鍵層と断層の関係を整理して説明して欲しい。	H26.3.20ヒアリング	
長嶺・高町背斜	14	H26.10.31	五日市地点では、断層が浅部で傾斜がゆるくなり東側に延びている可能性が考えられる、東側の沖積でもボーリングを行ってはどうか。	H26.10.30～31現地調査	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
長嶺・高町背斜	15	H26.10.31	五日市地点のボーリングについては、反射法地震探査や先行ボーリングの結果を見て、必要に応じて追加すること。	H26.10.30～31現地調査	
敷地内 地質・地質構造	16	H26.10.31	敷地内のボーリング調査について、BTVデータがあれば見せて欲しい。	H26.10.30～31現地調査	
立坑全体	17	H26.10.31	立坑調査位置の妥当性について、説明すること。	H26.3.20ヒアリング	
陸域 地質・地質構造	18	H26.10.31	敷地周辺の地質について説明すること	H26.11.26ヒアリング H27.1.6ヒアリング H27.1.14ヒアリング	
敷地内 地質・地質構造	19	H26.10.31	敷地内断層に類似する露頭があればその状況を示すこと	適切な露頭は存在しない	
上載層	20	H26.10.31	地層区分を分ける考え方について統一すること。 滞磁率など定量的な数値データがあると良い	H27.3.17現地調査	
上載層	21	H26.10.31	古安田層の堆積年代評価のベースとなる花粉分析やテフラ同定について詳細に説明すること	H27.1.20ヒアリング	
四紀断層	22	H26.10.31	地すべり性の断裂の分布や特徴について整理し要因分析すること	H26.12.15ヒアリング	
北2（西元寺）	23	H26.10.31	北2測線などボーリング標高や位置が不明確な図があるので正確にわかるようにすること。	拝承	
長嶺・高町背斜	24	H26.10.31	長嶺高町背斜を対象とした反射法地震探査で西傾斜の断層が浅いところで認められるため、当該の延長部のボーリングコアを確認すること。	H26.6.8ヒアリング	
立坑 V2	25	H26.10.31	V2立坑で認められる西山層と古安田層境界について条線などを分析して、当該立坑で認められる低角断層と比較すること。	H26.6.8ヒアリング	
立坑 F3	26	H26.10.31	F3立坑において沖積と古安田がシャープに接する部分の性状を確認すること。	H26.6.8ヒアリング	
上載層	27	H26.10.31	飯縄上榎Cの年代について、例えば青木ほか2008など最新の論文をレビューして堆積時期を検討すること。	H26.6.8ヒアリング	
長嶺・高町背斜	28	H26.10.31	刈羽測線や高町測線における灰爪－西山境界のコアを検討して地質断面図の検討を行うこと。	H26.6.8ヒアリング	
立坑 F3	29	H26.10.31	F3立坑で認められる西山層と古安田層境界について条線などを分析して、当該立坑で認められるF3断層と比較すること。	H26.6.8ヒアリング	

区分	No.	コメント		回答	備考
		日付	内容		
寺尾	30	H27.3.17	寺尾の正断層が地滑りであるならば、山側へすべっていることが理解しづらい。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	31	H27.3.17	寺尾のトレンチ北壁面で、A断層が上に凸の形状を呈している解釈を説明すること。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	32	H27.3.17	西元寺で、沖積層が深くなる北-2-T6、T10孔については、E.L.-60~-70m付近のコアに破砕されている部分が多いので確認すること。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	33	H27.3.17	寺尾のA断層などの正断層がどのような規模で生じているか検討すること。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	34	H27.3.17	寺尾の層面すべり断層以深の地滑りのイメージが持てない。想定解釈でもいいので、検討すること。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	35	H27.3.17	寺尾の断層の運動像を把握するため、応力解析を行うこと。	H26.6.8ヒアリング	
寺尾	36	H27.3.17	寺尾のトレンチにおける安田層下部層や大湊砂層の断層変位量を追記すること。	H26.6.8ヒアリング	
立坑 F5	37	H27.3.17	F5横坑部の西壁について、F5断層先端部は局所的に見ると、古安田層の上に西山層が載りだして逆断層に見える。先端部（ウェッジ部）の構造やせん断面、条線等を確認すること。	H27.4.20ヒアリング	
立坑 F5	38	H27.3.17	F5立坑調査における高角度断層について条線の分析を行うこと。	H27.2.27審査会合と重複	
立坑 F5	39	H27.3.17	F5断層、低角度断層の薄片観察の結果を説明すること。	H27.4.20ヒアリング	
立坑 F5	40	H27.3.17	F5-11孔の深度25.9mの亀裂は断層か？	H27.6.15ヒアリング	
上載層	41	H27.3.17	古安田層の帯磁率が値が大きくなっている箇所があるが、沖積層である可能性について検討すること。	H27.6.15ヒアリング	
全体	42	H27.3.17	事実と解釈を分けて、議論すること。（結論に至るロジックが分かるように。）	拝承	